

校訓	誠実・協調・博愛・奉仕	教育理念	夢を語り、学問を追究・実践し、誠実なる校風の基、平和社会の建設に貢献する。	達成度 (達成状況に応じた評価記号を記入する。)
教育目標	1. 個性を伸ばし、生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着 2. 基本的な生活習慣(あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重)を育み、国際化の社会に対応できる能力(情報発信力、コミュニケーション力・プレゼンテーション力等を総合的に備えた能力)の育成 3. 自ら課題を見つけ、自ら考え解決をめざす能力の養成 4. 多様な価値観を認め合い、他者を思いやる心の育成 5. あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養			「S」評価の観点を上回って実施できている。 「A」評価の観点を十分に実施できている。 「B」評価の観点を十分には実施できていない。 「C」評価の観点を実施できていない。

校内評価(自己評価)					
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策
学力の向上・授業改善	アクティブラーニングの推進	引き続き、定期試験において「思考力・判断力・表現力を問う問題」を課し、知識偏重教育からの脱却を進める。ICT機材の活用をすすめて、より効率的かつ理解度の高い授業の構築を目指す。	ICT機材の適切かつ効果的な利用が概ね達成できた。	A	有用性と技術スキルを、全教員により広く浸透させる。
	「総合的な探究の時間」の充実	昨年度の実績をもとに、1学年次の授業「総合的な探究の時間」の計画をさらに深化させ、双方向性の高い活動を多く盛り込み、創造力・主体性の育成を押し進める。	昨年度の経験をもとに、より創造性の高い授業を展開できた。	A	既存の教材の利用等、さらなる進展を図る。
	英語力の醸成と定着	英語4技能の向上を目標に置き、昨年度までも効果の高かった朝テスト・英会話講座。EnglishCampを実施する。加えて、ICT環境の充実を活かした「オンライン英会話」の取り組みを軌道に乗せる。	コロナ禍の影響下でも、会話を主体とする英語教育機会を効率的に提供できた。	A	感染予防を前提に、少しずつ可能性を模索する。
	習熟度別教育の実践	昨年度発進したところの「S特進クラス」「特進クラス」「進学クラス」の3クラス展開において、各クラスの状況を把握し、問題点やより効果的な運営方法を検証する。また、英語科において、引き続き第3学年の「コミュニケーション英語」を習熟度別に編成し、きめ細かな指導を実現する。	各クラスのすみわけがより明確になり、上位クラスへの所属意欲も向上した。英語科の習熟度別クラス展開も好評を得た。	A	上位クラスへの所属意識を高める。習熟度別教育を他教科にも広げる。
	補習授業及び教育セミナーの充実	生徒による授業評価、保護者への授業公開及び教員相互授業参観等の研修を通して、生徒の学力を育成するための授業改善を図る。また、夏期集中講座・一般入試直前講座・指名学習等の主要5教科を中心とした補習授業を企画し、生徒の向上心や競争心を喚起し、主体的な学力向上に繋げる。さらに、今年度も勉強合宿を実施し、勉強を習慣づける動機を与えることを目指す。	公開授業は問題なく消化できた。宿泊を伴う取り組みについては、コロナ禍の影響で叶わなかった。一方、夏期講習をはじめとする各種取り組みは、オンラインを活用してうまく遂行できた。	A	オンラインコンテンツをさらに有効活用し、各種講習の効率化を図る。感染予防に留意しながら、少しずつでも対面式教育を復活させる。
	ICT教育の推進	学校を挙げた設備の充実化と教員の意識向上を背景に、とくに授業の面でのICT機材活用を推進する。教員向けに、教務部所有のノートPCおよびタブレット端末を積極的に開放し、さまざまな使用方法を試しながら有効な実践例を集積していく。	教育全体のオンライン化が求められる世情の中で、いち早く対応して、本校独自の体制を作ることに成功した。	S	利用価値の高いものをさらに取り入れる。
進路指導・キャリア教育	進路意識の向上、キャリア教育	高校卒業後の進路のみ考えるのではなく、社会に出てからの自分を想像したうえで進路決定を促すため、職業学問適性検査並びに説明会、卒業生講演会、生徒対象進路説明会を実施し、様々な職業や社会情勢、就職状況などに目を向けさせる。	様々な説明会を実施したことや、職業学問適性検査を受検したことで、社会や就職状況等に目を向けさせることができた。	A	今後も最新の社会情勢を教員が学び続け、生徒に働きかけていく。
	難関大学合格者数の向上	生徒が自らの進路希望を叶え、難関大学に合格する力を身につけるため、全国学力模試、大学説明会、一般入試出願説明会を実施する。	最新の入試制度や入試環境について情報を集め、生徒へ伝え続けた。	S	今後も最新の大学入試情報を集め、生徒へ伝えていく。
	高大一貫教育の推進	麻布大学と連携し、附属高等学校対象プログラムを適切に実施するとともに、積極的な周知をする。	コロナ禍で従来のプログラムが実施できない面もあったが、オープンキャンパスとは別途附属高校のみのイベントを実施した。	B	今後は従来からのプログラムも実施に向けて取り組む。
	保護者への情報提供	生徒の進路決定に大きく影響する保護者へ向けて、最新の進路情報を発信・共有し、学校と保護者が協力して進路指導に向かう体制づくりを構築する。	保護者進路説明会を会場とオンラインのハイブリッドで実施した。質問にはすべて回答し、相互理解を深めた。	A	今後も会場とオンラインのハイブリッド実施により、多くの保護者と進路情報を共有する。
	新大学入試への対応	学習指導要領が刷新され、その最初の大学入試である2025年度入試へ向けて、新たな科目や動向などの情報収集に努めて教員・生徒・保護者間で共有していく。	進路教員で情報を集め、新1年生対象の説明会では、新科目や新課程をふまえての説明を実施した。	A	今後も情報をしっかりと集め、生徒・保護者と情報を共有する。

校内評価（自己評価）					
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策
生活指導・生徒支援	生徒の人格の尊重	規則やルールを尊重させる一方で、根底にある人格や考え方を否定することなく社会へ適応できるよう促す。SNS等で無自覚に相手の人格を深く傷つけることがあることを認識させる。ネット講習会などを通じて啓発を図る。	大半の生徒は良識をもって行動をすることができた。	A	現状の対応に満足せず、個々の生徒に合わせて臨機応変に対応する。
	挨拶の励行 規範意識の醸成	廊下等ですれ違う際に、挨拶をする校風を大切にする。風紀委員を活発に活動させ、生徒の側からも雰囲気醸成する。頭髪や服装に関するルールの必要性を理解させることで、主体的に身だしなみを整える雰囲気を醸成する。	風紀委員の活動を今年度より開始できた。服装頭髪に関しては日々の指導を行ったが、教員間の温度差があった。	B	一部の教員だけでなく、全体として指導が必要であることを全教員が理解するよう取り組む。
	いじめ防止	いじめ防止講演（年1回）の開催、いじめアンケート調査（年2回）の実施を柱とした、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に取り組む。教員へもアンケートを行い、生徒の些細な異変にも気づくように連携して指導する。	アンケートは全員を対象に実施。対応が必要ないじめ案件はなかった。	A	引き続き、いじめに繋がるような事象は小さいうちに芽を摘むよう教員が自覚を持って取り組む。
	生徒の相談・支援	生徒のプライバシーに十分配慮した生徒相談室の適切な活用と、専門医（臨床心理士・心療内科医）との連携を図り、悩みを抱える生徒へ即時的に対応する。生徒のみならず、保護者の利用も可能であることを必要に応じて家庭に紹介してゆく。相談員・担任以外にも悩みを打ちあける生徒がいることから、教員間での情報共有を密にするよう心掛ける。	関係諸機関との連絡を取りながら対応できた。	A	相談室に限らず、担任をはじめ全教員で生徒・保護者の声に傾聴できる環境づくりに努める。
学校安全衛生管理・学校運営	安全管理	安否確認システムを用い、緊急時に混乱を招かない連絡体制を整える。防災訓練の企画立案と実施、防災用品の入替や補充を行い、生徒と教職員が安全な学校生活を送ることのできる体制を整える。	日頃の防災に対する意識を高め、生徒が興味関心を持って見られるような動画作成に努めた。	B	実践編として、避難訓練を実施する。
	環境整備	円滑な学校運営に配慮して校内配置を決定すると共に、修繕調査を実施し、快適な学習環境の確保に努める。教室備品の経年劣化について、長期的視点での入替を検討する。	懸案であった2号棟教室の机椅子について入替を実施することができた。	A	継続して丁寧な利用を促す。
	儀式の企画立案と実施	節目となる儀式で、日頃身につけた礼儀作法を確認すると共に、学校生活における目的を共有し、前向きに自ら取り組む姿勢を養う。感染症対策を踏まえ、臨機応変な対応を行う。	入学式・卒業式共に保護者を迎え、学校・生徒・保護者みなで節目の時を祝うことができた。	A	生徒のみならず保護者の体調不良等緊急時の対応について再確認する。
	各種契約	制服、卒業アルバム、校外行事について、適正な契約が行えるよう、関係部署と協議しながら進める。制服販売の効率化や利便性に関する検討を行う。	各学年と連携し、適正に進めることができた。	A	継続して適正な契約に努める。
	後援会、同窓会活動協力	後援会、同窓会の協力を得ながら、活動を通して信頼関係を深め、円滑な学校運営を目指す。	後期より後援会新規本部役員を募り、連携して活動を進めた。保護者の来校する機会が少なくなっている中で学校生活を伝えるべく、広報誌やまゆりの充実に努めた。	A	引き続き、円滑な運営と活動補助に努める。
	図書室における活動への協力	図書室がますます有効活用されるよう、司書と協力して円滑な運営に努める。	司書交替等により、運営方法について再確認を行った。	A	図書委員会活動を少しずつ再開させる。
生徒会指導・生徒の自主自立	学校行事（体育祭&文化祭）において生徒が考え行動する時間の枠組み作り	主に実行委員長と入念に話し合いを持ち、生徒が自主的に行動できる枠を作成。時間がかかることではあるが、「行事」に対する生徒の意欲は年々上昇しており「生徒からの発信」が今後の生徒の可能性につながると考える。	徐々にではあるが生徒の自発的行動が増えつつある。	B	コロナ禍により時間短縮が必須となり実現が困難。工夫が必要。
	部活動の適切な運営・管理・感染防止対策の徹底	各部活動に「月間予定」を作成依頼し、調整・管理を行う。文武両道を掲げ、勉学と同様に重要なものであるからこそ全体を一括管理する。コロナ禍において集団で動くことが避けられない部活動の再開は様々な問題があるが、教員・生徒共に感染防止対策に努め、個人個人で率先して対策できるようにしていく。	各部、非常に高い意識で活動を実践している。しかし、時間の経過とともにおろそかになっている部分もある。	A	危機管理が再度徹底され、各部とも適切に運用でされている。
	地域貢献	・相模原地区「絆プロジェクト」へ協力し、近隣の児童クラブに赴き、学習支援や触れ合い活動を通して絆を深めると共に、青少年の非行防止に貢献する。 ・文化祭に近隣の方々を招待し学校の雰囲気を感じていただくとともに、教育活動への理解を求める。	コロナ禍の影響もあり、実施を見送った。	C	感染対策を講じつつ実施可能なプログラムを模索してゆく。

校内評価（自己評価）					
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策
入試広報 ・生徒募集	安定的で質の高い生徒の確保	現在、在校生の人数が定員を大きく超過しており、施設や教員が不足する事態となっている。そのため、何としても入学者数を絞る必要があることから、受験者 1,000 名、入学者 258 名を目標として、適正な内申基準の設定、効果的な入試制度を模索し、更なる改善を図る。上記施策を断行した結果、一時的に定員割れを起こす可能性もあるが、3 学年合わせた生徒総数は定員を大きく超過している状態であるため、教育環境の改善を優先させたい。	上位クラスの内申基準を上げて臨んだが、結果として受験者数 1600 名強、入学者 383 名となった。予測よりも大きく上振れしたものの、質の高い生徒を一定程度確保できた。	B	更に内申基準を上げることで、適正な生徒数と質の高い生徒の確保に取り組みたい。
	学校説明会をはじめとする広報活動の効果的かつ適正な運用	年々増加する来場者の満足度を落とすことなく、本校のアピールすべき内容を的確に伝えるために、教員の配置の更なる改善や、説明内容の精査に取り組む。中学生保護者に対する説明が、教員によって個人差が生じないよう、マニュアルの徹底を図り、説明資料の統一と共有化を図る。教員や生徒の振る舞いによって、本校の印象が大きく左右されることを学校全体で自覚し、来場者に対する丁寧な対応を徹底する。	引き続きコロナ禍での広報活動となり、大幅な制限の中で実施せざるを得ない状況となったが、従前の踏襲ではなく、新しい取り組みへの移行など外部要因の変化に柔軟に対応することで、組織力のさらなる強化につなげることができた。	A	更に業務の標準化を進め、ホスピタリティの質を高めることで、受験生の印象向上につなげたい。
	入試業務の一層の効率化を図り、教員負担の軽減を目指す	年々増加する入試業務に対し、一層の取捨選択をし、担当教員の負担軽減に取り組む。具体的には、外部入試相談会の精査、参加教員数の再設定、休日出勤における振替休日の確実な取得などが挙げられる。	コロナ禍で活動が制限される中、以前と比べて業務負担は減少しているが、担当教員の負担感の払しょくまではいかなかった。	B	引き続き業務改善と業務の精査に取り組む。
	ホームページをはじめとするインターネットの一層の活用ならびに充実	近年、情報のほとんどがインターネット上から得る社会となりつつあり、本校の入試広報に関する情報の情報についても、ネット上の発信が極めて有効であることから、ホームページの一層の充実を図るほか、スマートフォンサイトの適切な運用を進める。また LINE 公式アカウント、Youtube チャンネル等の充実を図る。	コロナ禍対応によって獲得した動画作成スキルを用いて、Youtube チャンネルにおいては投稿動画も充実し、視聴者数・登録者数も大きく伸びた。	A	LINE アカウントの充実や、他のコンテンツの模索など、WEB コンテンツの尚一層の充実を図りたい。